



サイトの構築方法

サイトの構築方法

ここでは、Comunica Templates のテンプレートを活用してできるサイトの作り方について簡単にご説明します。

Comunica Templatesのテンプレートは、Movable Type用テンプレートです。ブログ操作における詳細は、Movable Typeのドキュメントをご参照ください。

(<http://www.movabletype.jp/documentation/>)

目次

- (0) [サイトの構成要素](#)
 - (1) [カテゴリメニューの作成](#)
 - (2) [記事の作成](#)
 - (3) [ウェブページの作成](#)
 - (4) [SEO対策 \(titleとmetaタグにおけるdescription とkeywords\)](#)
 - (5) [タグ付け](#)
 - (6) [会社概要ページの作成](#)
 - (7) [お問い合わせページの作成](#)
 - (8) [サイドナビのお問い合わせ先の作成](#)
 - (9) [トップページのトピック記事の作成](#)
 - (10) [ロゴの入れ替え](#)
 - (11) [トップイメージの入れ替え](#)
 - (12) [文字サイズの変更](#)
 - (13) [用意されているHTMLタグ用のクラス](#)
 - (14) [用意されているCSSスタイル済みのHTMLタグ](#)
-

(0) サイトの構成要素

以下の図は、Comunica Templates のテンプレートで作成されるサイトの、主な構成要素について記載したものです。これからご説明する各セクションの名称の参考に、ご参照ください。



(1) カテゴリメニューの作成

サイトのメニューとなるカテゴリを作成します。ここで作成するカテゴリとして、以下のような例でカテゴリを作成していきます。

※Comunica Templates のテンプレートでは、カテゴリメニューの表示上、それぞれのカテゴリに対して必ず 1 つ以上の記事が作成される必要があります。

-
- ・ 美術 （出力フォルダ名を art とする）
 - ・ 絵画 （出力フォルダ名を paint とする）
 - ・ 建築 （出力フォルダ名を architecture とする）
 - ・ 文芸 （出力フォルダ名を literature とする）
 - ・ 詩 （出力フォルダ名を poem とする）
 - ・ 小説 （出力フォルダ名を novel とする）
-

「My First Blog」の管理画面を表示します。操作メニューの「一覧」の中から「カテゴリ」を選択しクリックします。



「カテゴリの管理」というタイトルのページに移りますので、そのページの「トップレベルカテゴリを作成」をクリックします。



カテゴリを作成するテキストボックスが表示されますので、ここに作成したいカテゴリ名を入力します。

ここでは、例に挙げたトップレベルのカテゴリである「美術」を入力します。この時、「美術」の前に「01-」（半角英数文字で入力）を付け加えます。これは、数字でカテゴリの順序を調整する為です。入力し終わったら、右側にある「新規作成」ボタンをクリックします。



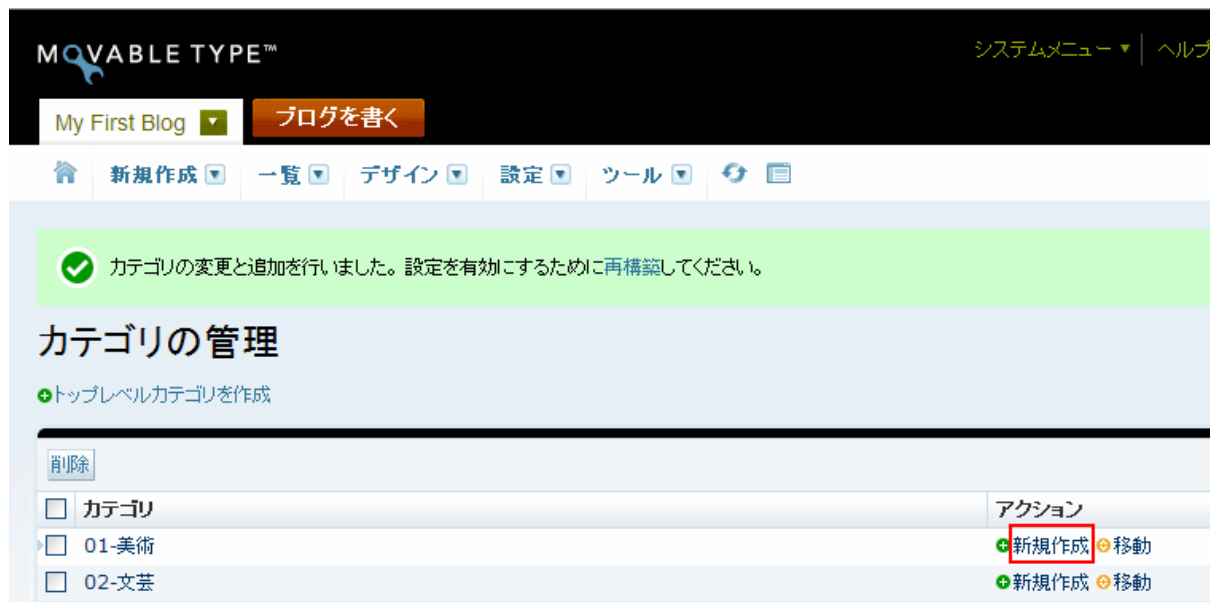
次に、同じトップレベルのカテゴリである「文芸」用のカテゴリを作成します。「トップレベルカテゴリを作成」をクリックします。



カテゴリを作成するテキストボックスが表示されますので、ここに「02-文芸」と入力します。入力し終わったら、右側にある「新規作成」ボタンをクリックします。



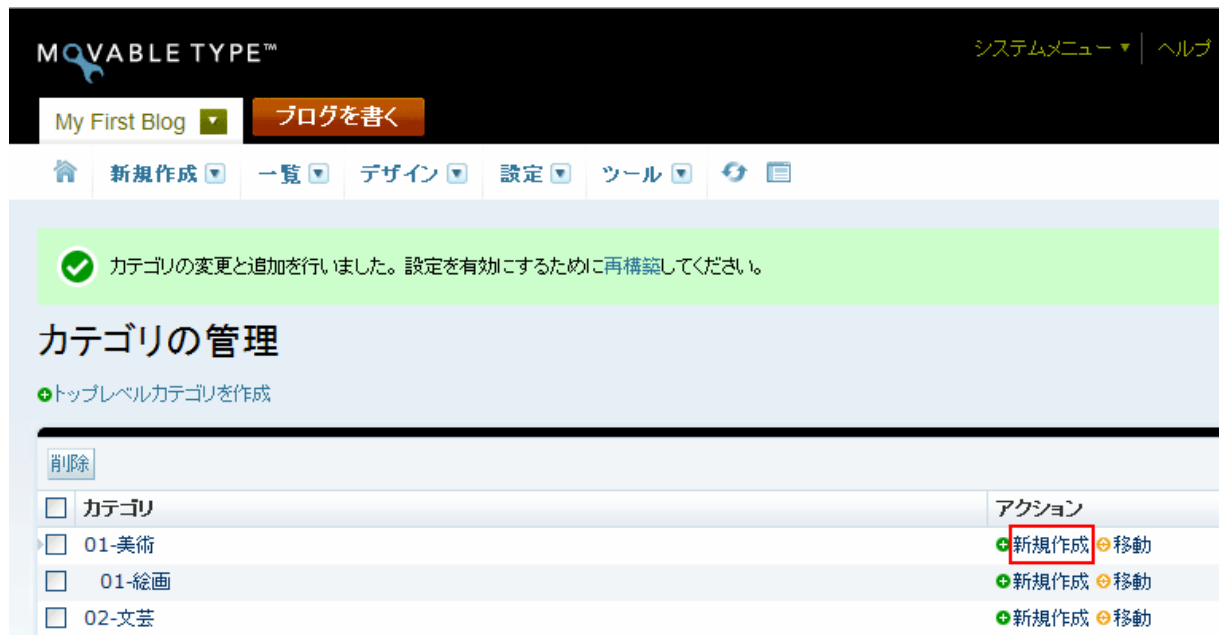
では、次に、「美術」のサブカテゴリである「絵画」と「建築」のカテゴリを作成します。これらは、「美術」用のサブカテゴリであるので、「01-美術」の欄にある「新規作成」をクリックします。（もしも、「02-文芸」のカテゴリにサブカテゴリを作成する場合は、「02-文芸」の欄にある「新規作成」をクリックします。）



カテゴリを作成するテキストボックスが表示されますので、ここに「01-絵画」と入力し、右側にある「新規作成」ボタンをクリックします。



次に、「美術」のもう1つのサブカテゴリである「建築」のカテゴリを作成します。
再度、「01-美術」の欄にある「新規作成」をクリックします。



カテゴリを作成するテキストボックスが表示されますので、ここに「02-建築」と入力し、右側にある「新規作成」ボタンをクリックします。



次に、「文芸」のサブカテゴリである「詩」と「小説」のカテゴリを作成します。
これらは、「文芸」用のサブカテゴリであるので、「02-文芸」の欄にある「新規作成」をクリックします。



カテゴリを作成するテキストボックスが表示されますので、ここに「01-詩」と入力し、右側にある「新規作成」ボタンをクリックします。



次に、「文芸」のもう1つのサブカテゴリである「小説」のカテゴリを作成します。
再度、「02-文芸」の欄にある「新規作成」をクリックします。



カテゴリを作成するテキストボックスが表示されますので、ここに「02-小説」と入力し、右側にある「新規作成」ボタンをクリックします。



これで一通り、カテゴリを作成することができました。しかし、このままだと、Comunica Templates のテンプレートでは、メニューとしてこれらのカテゴリをサイト上に表示することができません。サイトにメニューを表示する為には、「カテゴリの編集」ページにおいて「説明」の箇所に、表示したいカテゴリ名を入力する必要があります。

（これと共に、そのカテゴリには 1 つ以上の記事が必要です。）

また、カテゴリのフォルダ名として、指定のフォルダ名がある場合は、同じく、「カテゴリの編集」ページにて、「出力ファイル/フォルダ名」の箇所にフォルダ名を入力します。

では、まず「美術」のカテゴリから設定を行います。「カテゴリの管理」のページより、「01-美術」をクリックします。



「カテゴリの編集」というタイトルのページが表示されますので、このページの「説明」箇所に、サイトに表示したいカテゴリ名「美術」を入力します。また、「美術」のフォルダ名である「art」を「出力ファイル/フォルダ名」の箇所に入力します。

（出力フォルダ名に関しては、変更しなければ、Movable Type により自動で設定されたものが使用されます。）

入力が済みましたら、下方にある「変更を保存」ボタンをクリックします。

次に、「01-絵画」のカテゴリを編集します。右側の「ショートカット」メニューより、「カテゴリの管理」をクリックします。

「カテゴリの管理」のページに移行しますので、「01-絵画」をクリックします。



「カテゴリの編集」というタイトルのページが表示されますので、このページの「説明」箇所に、サイトに表示したいカテゴリ名「絵画」を入力します。そして、「絵画」のフォルダ名である「paint」を「出力ファイル/フォルダ名」の箇所に入力します。

入力が済みましたら、下方にある「変更を保存」ボタンをクリックします。



次に、「02-建築」のカテゴリを編集します。右側の「ショートカット」メニューより、「カテゴリの管理」をクリックします。



「カテゴリの管理」のページに移行しますので、「02-建築」をクリックします。



「カテゴリの編集」というタイトルのページが表示されますので、このページの「説明」箇所に、サイトに表示したいカテゴリ名「建築」を入力します。そして、「建築」のフォルダ名である「architecture」を「出力ファイル/フォルダ名」の箇所に入力します。

入力が済みましたら、下方にある「変更を保存」ボタンをクリックします。

その他のカテゴリの、「02-文芸」、「01-詩」、「02-小説」に関しても、「01-美術」、「01-絵画」、「02-建築」で行ったカテゴリの編集と同様に、カテゴリの「説明」と「出力ファイル/フォルダ名」を入力します。それぞれに対する「説明」と「出力ファイル/フォルダ名」は以下の通りです。

カテゴリ	出力ファイル/フォルダ名	説明
02-文芸	literature	文芸
01-詩	poem	詩
02-小説	novel	小説

(2) 記事の作成

ここでは、My First Blog に記事を作成していきます。作成された記事は、トップページ (HOME) の「最新記事」の箇所に最新記事 5 件が自動表示されるようになっています。

メインのブログである「My First Blog」のダッシュボードを表示します。
操作メニューより、「新規作成」の中の「ブログ記事」をクリックします。



「新しいブログ記事を作成」というタイトルのページに移ります。ここでは、「美術」のカテゴリに記事を作成します。記事の「タイトル」と「本文」の箇所にテキストを入力し、右側メニューの中の「カテゴリ」の欄に、先ほど作成した「01-美術」がありますので、これにチェックを入れます。

また、「カテゴリ」の下に「コミュニケーション」という箇所があり、初期設定では「コメント」や「トラックバック」にチェックが入っていますが、これらを受け付けない場合はチェックを外します。

「公開状態」が「公開」になっているのを確認後、左下にある「保存」ボタンをクリックします。

※正しい HTML 記述をするには、「HTML モード」ボタンをクリックし、HTML モードでタグ付けを行うか、「フォーマット」を「なし」にして HTML のタグ付けをします。これには基本的な HTML の知識が必要ですが、SEO を高める為、重要です。ここでは、本文に入力したパラグラフは HTML の<p>タグで囲んでいます。

新しいブログ記事を作成

表示オプション

タイトル

美術

本文

続きを読む

フォーマット: リッチテキスト

A⁺ A⁻ B I U S

美術における歴史について。これはテストです。美術に関する記事のテストを入力しています。テスト。美術における歴史について。これはテストです。美術に関する記事のテストを入力しています。テスト。

タグ

キーワード

保存

確認

15:23:51に自動保存済み

公開

公開状態

公開

公開日

2009-05-25

15:13:27

出力ファイル名

カテゴリ

開じる

新規追加

☒ 01-美術

☐ 01-絵画

☐ 02-建築

☐ 02-文芸

☐ 01-詩

☐ 02-小説

★ 01 美術

コミュニケーション

受信設定

☒ コメント

☒ トラックバック

「ブログ記事を保存しました。ブログ記事を見る」というコメントが表示されますので、「ブログ記事を見る」をクリックします。



「美術」のカテゴリに作成された記事が表示されます。

※先ほど作成したカテゴリの箇所でも述べましたが、それぞれのカテゴリに記事がまだ無い場合は、カテゴリメニューとしてのリンクが張られていない状態になります。ここでは「絵画」「建築」「文芸」「詩」「小説」のカテゴリがそれに当たります。作成したカテゴリを正しく表示するために、必ず1つ以上の記事をそれぞれのカテゴリに投稿します。



「絵画」「建築」「文芸」「詩」「小説」用のページも（ここでは、ステップは省きます）、「美術」用に作成したページと同じ要領で作成します。作成した後は、サイト全体にリンクを反映させるために再構築を行います。（「サイトを再構築」ボタンをクリックします。）

※「My First Blog」は、Movable Type をインストールした際に作られたブログですので、初期設定として「Movable Type4 へようこそ!」というエントリーが投稿されています。これを削除するには、操作メニューの「一覧」より「ブログ記事」をクリックし、当該エントリーを削除します。

(3) ウェブページの作成

サイトの左側にある「カテゴリメニュー」の下には「ウェブページ」で作成したページのリンクが来るようになっていきます。「カテゴリメニュー」とは異なり、「ウェブページ」のリンクはフッターにも表示されます。

「カテゴリメニュー」の下に表示される「ウェブページ」を作成するには、そのページに対してフォルダを作成し、そのフォルダ内に記事を作成するようにします。

「My First Blog」のダッシュボードを表示します。
操作メニューの「新規作成」の中にある「ウェブページ」をクリックします。



「新しいウェブページを作成」というタイトルのページに移りますので、ウェブページの「タイトル」と「本文」の箇所にテキストを入力します。ここでは、「プライバシーポリシー」を「タイトル」に、サンプルテキストを「本文」に入力します。

そして、右側メニューの中に「フォルダ」の欄がありますので、「フォルダの変更」をクリックし、このページが属するフォルダを作成します。

※正しいHTML記述をするには、「HTMLモード」ボタンをクリックし、HTMLモードでタグ付けを行うか、「フォーマット」を「なし」にしてHTMLのタグ付けをします。これには基本的なHTMLの知識が必要ですが、SEOを高める為、重要です。ここでは、本文に入力したパラグラフはHTMLの<p>タグで囲んでいます。

新しいウェブページを作成

表示オプション

タイトル
プライバシーポリシー

本文 続き フォーマット: リッチテキスト

プライバシーポリシーに関する説明です。これはテスト投稿です。プライバシーの方針についての記事です。プライバシーポリシーに関する説明です。これはテスト投稿です。プライバシーの方針についての記事です。

公開

公開状態 公開

公開日 2009-05-25 22:04:37

フォルダ / フォルダの変更

ファイル名 .html

「フォルダ」の作成方法ですが、「フォルダの変更」をクリック後、「フォルダ」の下に、丸いボタンが表示されますので、それにマウスオーバーすると右側に、中心にプラス（+）が描かれた緑色のボタンが表示されますので、これをクリックします。

表示オプション

公開

公開状態 公開

公開日 2009-05-25 22:04:37

フォルダ /

+

テキストボックスが表示されますので、そこに、ここでは「privacy」と入力し、緑色のプラス（+）マークをクリックします。

表示オプション ▼

公開

公開状態

公開日

フォルダ /

「フォルダ」の箇所に「privacy」が設定されたのがわかります。
また、「公開状態」を「公開」に、「ファイル名」には「index」を入力します。

（「ファイル名」は、その「フォルダ」における初期値としてのページの場合、「index」と設定します。初期値で無い場合は、任意の名前を付けます。また、「ファイル名」に何も入力しない場合は、Movable Type が自動で名前を設定します。）

入力が終わったら、ページ左下にあります「保存」ボタンをクリックします。

表示オプション ▼

公開

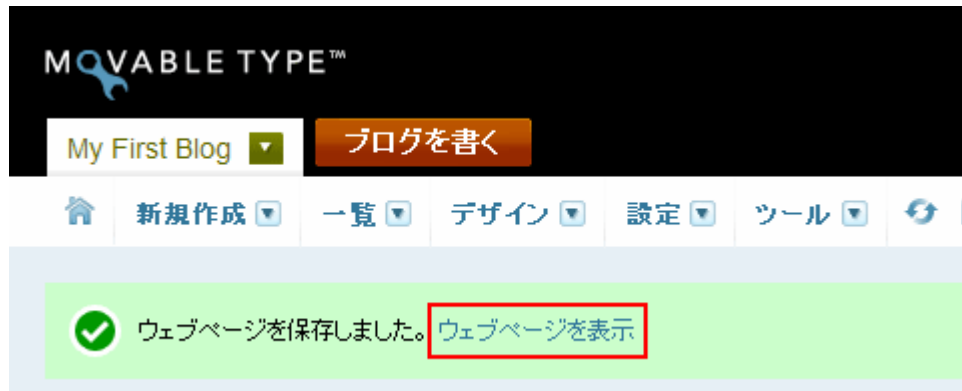
公開状態

公開日

フォルダ

ファイル名 .html

「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」というコメントが表示されますので、「ウェブページを表示」をクリックします。



「プライバシーポリシー」のウェブページが表示されます。



「プライバシーポリシー」のウェブページが作成できたら、サイト全体に「プライバシーポリシー」ページへのリンクをサイドナビに反映させるために、「My First Blog」と「ニュース」のブログにおいて「サイトを再構築」します。(再構築ボタンをクリックします。)

(4) SEO 対策(title と meta タグにおける description と keywords)

HTML 文書のヘッダ部分には、その文書がどのような情報を持つページであるのかを、正しくウェブサーバやユーザエージェントに伝えるための情報が記述されています。この為、その情報の中の「タイトル (title)」や「概要 (description)」そして「キーワード (keywords)」に適切なキーワードを含ませることで SEO を意識した記述をすることができます。

HTML 文書のヘッダ部分の「タイトル (title)」、「概要 (description)」、「キーワード (keywords)」は以下の図の赤で囲んだ部分になります。

(ちなみに、通常、「タイトル (title)」は、ウェブブラウザで HTML ファイルを見ている時に、左上にテキストで表示されます。)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
  "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xml:lang="ja" lang="ja" id="sixapart-standard">
<head>
  <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8" />
  <meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript" />
  <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css" />
  <meta name="generator" content="Movable Type 4.261" />
  <title>My First Blog</title> ← タイトル
  <meta name="description" content="My First Blogの概要がここに来ます。" /> ← 概要
  <meta name="keywords" content="美術,絵画,建築,文芸,詩,小説" /> ← キーワード

  <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/styles.css" type="text/css" media="screen, tv" />
  <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/font_m.css" type="text/css" media="screen, tv" />
  <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/print.css" type="text/css" media="print" />

  <link rel="alternate" type="application/atom+xml" title="ニュースのAtom" href="http://www.yourdomain.com/news/atom.xml" />
  <link rel="alternate" type="application/rss+xml" title="ニュースのRSS" href="http://www.yourdomain.com/news/rss.xml" />
  <link rel="alternate" type="application/atom+xml" title="サイトのAtom" href="http://www.yourdomain.com/atom.xml" />
  <link rel="alternate" type="application/rss+xml" title="サイトのRSS" href="http://www.yourdomain.com/rss.xml" />

  <link rel="start" href="http://www.yourdomain.com/" title="Home" />
  <link rel="index" href="http://www.yourdomain.com/archives.html" title="Sitemap" />
</head>
```

これらの「タイトル (title)」、「概要 (description)」、「キーワード (keywords)」の内容は、テンプレートの種類によって記述される内容が異なってきます。(ここで言うテンプレートの種類とは、「インデックステンプレート」、「アーカイブテンプレート」の中の各種テンプレートのことです。)

それでは、各テンプレートによって出力されるページの、「title」、「description」、「keywords」が、どこから来ているのかの説明に入ります。

■ トップページ（「My First Blog」の「インデックステンプレート」の「メインページ」によって出力されるページ）の title、description、keywords

	
<p>Title</p>	<p>「My First Blog」の「ブログの設定」（操作メニューの「設定」＞「全般」）における「名前」が title として記述されるようになっていきます。</p>
<p>Description</p>	<p>「My First Blog」の「ブログの設定」（操作メニューの「設定」＞「全般」）における「説明」が description として記述されるようになっています。</p>
<p>Keywords</p>	<p>「My First Blog」のテンプレートモジュール（操作メニューの「デザイン」＞「テンプレート」＞「テンプレートモジュール」＞「キーワード」）である「キーワード」の内容が keywords に記述されるようになっています。</p>


■ 各カテゴリトップページ（「My First Blog」の「アーカイブテンプレート」の「ブログ記事リスト」によって出力されるページ）の title、description、keywords

	<p>Title</p> <p>カテゴリトップページのカテゴリ名がtitleとして記述されるようになっています。</p>
<p>Description</p> <p>カテゴリトップページのカテゴリ名がdescriptionとして記述されるようになっています。</p>	<p>Keywords</p> <p>「My First Blog」のテンプレートモジュール（操作メニューの「デザイン」>「テンプレート」>「テンプレートモジュール」>「キーワード」）である「キーワード」の内容がkeywordsに記述されるようになっています。</p>

■ 各詳細ページ（「My First Blog」の「アーカイブテンプレート」の「ブログ記事」によって出力されるページ）の title、description、keywords

	
Title	ブログ記事の「タイトル」が title として記述されるようになっています。
Description	ブログ記事の「概要」として入力した内容、もしくは、「概要」に何も入力がなされなかった場合は、ブログ記事の「本文」から設定箇所指定した文字数分が先頭より、description として記述されるようになっています。
Keywords	ブログ記事の「キーワード」として指定した内容が keywords に記述されるようになっています。

■ ウェブページ（「My First Blog」の「アーカイブテンプレート」の「ウェブページ」によって出力されるページ）の title、description、keywords

	
Title	ウェブページの「タイトル」が title として記述されるようになっています。
Description	ウェブページの「概要」として入力した内容、もしくは、「概要」に何も入力がなされなかった場合は、ウェブページの「本文」から、設定箇所指定した文字数分が先頭より、description として記述されるようになっています。
Keywords	ウェブページの「キーワード」として指定した内容が keywords に記述されるようになっています。

それでは具体的に、各種テンプレートによって出力されるページの title、description、keywords の設定箇所についてご説明します。

■ トップページにおける title と description と keywords

まずは、「title」と「description」の設定箇所です。

「My First Blog」のダッシュボードを表示します。操作メニューの「設定」の中の「全般」をクリックします。



「全般」というタイトルのページが表示されます。ここの「ブログの設定」の箇所にある、「名前」が「title」に、「説明」が「description」に記述されることになります。



次は、トップページにおける「keywords」の設定箇所に移ります。操作メニューの「デザイン」の中の「テンプレート」をクリックします。



「ブログのテンプレート」というタイトルのページに移りますので、右側のメニューにあります「テンプレートモジュール」をクリックします。



「ブログのテンプレート」というタイトルのページが表示されます。このテンプレートモジュールの中に「キーワード」というモジュールがありますので、これをクリックします。



「テンプレートを編集」というタイトルのページが表示されますので、ここのテキストエリアにキーワードを記述します。キーワードは、単語を半角英数文字のコンマ「,」で区切りながら入力し、最後のテキストの後は改行せず、余分なスペースを含めないようにします。



■ 各カテゴリトップページにおける title と description と keywords

各カテゴリトップページにおける「title」と「description」には、そのページが属しているカテゴリの名前（具体的にはカテゴリの「説明」）が来るようになっています。

また、「keywords」に関しては、上記、トップページにおける「keywords」の設定と同じですので、ここではステップを省略します。詳しくは、トップページ（上記）における「keywords」の設定をご参照ください。

■ 各詳細ページにおける title と description と keywords

各詳細ページにおける「title」と「description」と「keywords」は、「ブログ記事」を作成する際に記述する項目の内容が来るようになっています。

ここでは、「(2) 記事の作成」で既に作成しているブログ記事に対して、「description」と「keywords」をそれぞれ入力し、SEO 対策を行います。

また、「title」にはブログ記事の「タイトル」が来るようになっています。ですので、ブログ記事の「タイトル」を決める際は、SEO を意識し、できるだけ違和感のない程度で、キーワードをタイトルに組み込むことが大切です。これにより、検索エンジン対策としての効果を高めることができます。また、title は、description や keywords よりも SEO 効果が高いため、キーワードをうまく組み込んだタイトルの作成は、とても大切な設定ポイントとなります。

「My First Blog」のダッシュボードを表示します。そして、操作メニューの「一覧」の中の「ブログ記事」をクリックします。



「ブログ記事の管理」というタイトルのページに移りますので、このページに表示されているブログ記事の中から、ここでは、「美術」をクリックします。



「ブログ記事の編集」というタイトルのページが表示されます。このページの中の下の方に「キーワード」が入力できるテキストボックスがありますので、単語を半角英数文字のコンマ「,」で区切りながら入力します。（最後の単語の後ろには、コンマ「,」は必要ありません。）



次に、「description」である「概要」にテキストを入力します。

標準の状態では、「概要」の欄は管理画面に表示されていないので、これを表示するところから始めます。同ページ右上に「表示オプション」というリンクがありますので、これをクリックします。

「表示オプション」という小さな画面が同ページ上に表示されますので、このリストの中にある「概要」にチェックを入れ、下方にある「OK」ボタンをクリックします。

「ブログ記事作成画面の設定を保存しました。」というメッセージが表示されます。ページ下方に「概要」欄が新たに加えられます。ここに、このページの「概要」となるテキストを入力し、「保存」ボタンをクリックします。

もしも「概要」のテキストエリアに何も記述しなかった場合は、「概要の文字数」で設定した文字数分が本文から引用され、「description」として表示されます。この「概要の文字数」を確認するには、操作メニューにある「設定」の中の「ブログ記事」をクリックします。



「ブログ記事設定」というタイトルのページに移ります。このページの「画面設定」の中に「概要の文字数」という箇所があります。このテキストボックスに設定されている文字数分の本文が「概要」として表示されるようになります。

「description」として設定する文字数があまりにも長すぎると、検索エンジンサイトによる評価が下がってしまいますので、40～100文字程度を目安に設定します。



■ ウェブページにおける title と description と keywords

ウェブページにおける「title」、「description」、「keywords」の設定方法は、「■ 各詳細ページにおける title と description と keywords」で説明した設定方法と基本は同じですので、ウェブページにおける設定の手順は省略します。

※テンプレートモジュールやブログの設定を変更した場合は、必ずサイトを再構築し、変更した箇所をサイト全体に反映します。

(5) タグ付け

Movable Type では、「ブログ記事」、「ウェブページ」、「アイテム」に対して「タグ」を付与することができます。タグを付けることで、その「記事/ウェブページ」、もしくは、「アイテム」に対し、それらが既に属しているカテゴリとは別の分類機能を持たせることができます。

例えば、これまでに、「カテゴリメニュー」として「美術」、「絵画」、「建築」というカテゴリを作成し、それぞれに属する記事を作成しましたが、それぞれの記事に対して、「世紀」に関する「タグ」を付与することで、そのカテゴリの分類を越えた、「世紀」という属性を与えることができます。(カテゴリでの分類が縦の分類とすれば、タグによる分類は横の分類と言うことができます。)

Comunica Templates のテンプレートでは、「ブログ記事」に付けられた「タグ」のみが、サイドナビの「タグクラウド」として表示されるようになっています。「ウェブページ」や「アイテム」に付けられた「タグ」は、「タグクラウド」には表示されません。

また、「タグクラウド」の箇所に表示される「タグ」は、利用頻度の高いものから上位 20 位までが表示されるようになっています。

では、実際に「ブログ記事」に対してタグ付けを行っていきます。ここでは、既に作成している「ブログ記事」に対して「タグ」付けを行っていきます。

「My First Blog」のダッシュボードを表示します。操作メニューの「一覧」の中の「ブログ記事」をクリックします。



「ブログ記事の管理」というタイトルのページが表示されますので、このブログ記事の中から、ここでは、「建築」をクリックします。

「変更を保存しました。ブログ記事を見る」というメッセージが表示されますので、「ブログ記事を見る」の箇所のリンクをクリックします。



「建築」のブログ記事が表示されます。サイドナビの箇所に「タグクラウド」が、そして、コンテンツの下に「この記事の関連タグ」が表示されているのがわかります。



※サイドナビに表示される「タグクラウド」をサイト全体に反映する為に、「My First Blog」を再構築します。

(6) 会社概要ページの作成

Comunica Templates のテンプレートでは、「ウェブページ」機能を利用して「会社概要」ページを作成します。「会社概要」ページへのリンクは、「ヘッダーメニュー」に追加されるようにしています。ここでは、そのページの作成方法についてご説明します。

「My First Blog」のダッシュボードを開きます。操作メニューの「新規作成」の中の「ウェブページ」をクリックします。



「新しいウェブページを作成」というタイトルのページが表示されます。ここにウェブページの「タイトル」として「会社概要」、「本文」としてテキストを入力し、「タグ」の箇所に半角英数文字で「@about」と記述します。

そして、「公開状態」を「公開」に、ファイル名として「about」と記述し、左下方にある「保存」ボタンをクリックします。(ファイル名は特に「about」である必要はありません。ご自分でわかりやすい名前であれば OK です。)

※「会社概要」ページを作成する上でポイントなのは、「タグ」の箇所に「@about」と記述することと、「会社概要」ページ用に「フォルダ」を用意しない点です。(つまり root 直下にファイルを置きます。)

タイトル

会社概要

本文 続き

フォーマット: リッチテキスト

A

A

B

I

U

S

これは会社概要の内容です。会社概要のサンプルテキストを入力しています。これは会社概要のテストです。テキストの内容。

タグ

@about

概要

キーワード

保存

確認

14:19:31に自動保存済み

公開

公開状態

公開

公開日

2009-05-26

14:15:39

フォルダ

/

フォルダの変更

ファイル名

about

.html

コミュニケーション

受信設定

☐ コメント
☐ トラックバック

トラックバック

送信先URL

「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」というメッセージが表示されますので、「ウェブページを表示」の箇所のリンクをクリックします。



「会社概要」のページが表示されます。同時に、「ヘッダーメニュー」、「フッターメニュー」の箇所に、「会社概要」ページへのリンクができたことがわかります。

YOUR COMPANY LOGO

ビジネスに活用できる、シンプルなデザインで、使いやすいテンプレートを。

ホーム | **会社概要** | お問い合わせ | サイトマップ |

● 美術

▶ 絵画

▶ 建築

● 文芸

▶ 詩


▶ 小説

● プライバシーポリシー

タグクラウド

18世紀 19世紀 20世紀

RSS Feed

 [サイトの更新情報を取得する](#)

ホーム > **会社概要**

会社概要

これは会社概要の内容です。会社概要のサンプルテキストを入力しています。これは会社概要のテストです。テキストの内容。

[▲ ページトップへ](#)

ホーム | **会社概要** | プライバシーポリシー | お問い合わせ | サイトマップ

(7) お問い合わせページの作成

「お問い合わせ」のページについては、テンプレートをブログに設置した際に、既に枠となる「お問い合わせ」のページが作成されていますが、内容が出来ていません。ここでは、内容の作成方法についてご説明します。

「My First Blog」のダッシュボードを表示します。操作メニューの「新規作成」の中の「ウェブページ」をクリックします。



「新しいウェブページを作成」というタイトルのページが表示されますので、このウェブページの「タイトル」として「お問い合わせ」、本文にお問い合わせの内容となるような連絡先（住所、電話番号、Fax 番号、Email アドレスなど）を記述します。
（ここでは、テーブルを組んで情報を羅列しています。）

そして、「タグ」の箇所に半角英数文字で「@contact」と記述し、「公開状態」を「公開」に、ファイル名のところに「contact」と入力、そして、左下方にある「保存」ボタンをクリックします。（ファイル名は特に「contact」である必要はありません。ご自分でわかりやすい名前であれば OK です。）

※「お問い合わせ」ページを作成する上でポイントなのは、「タグ」の箇所に「@contact」と記述することと、「お問い合わせ」ページ用に「フォルダ」を用意しない点です。（つまり root 直下にファイルを置きます。）

タイトル
お問い合わせ

本文 続き フォーマット: リッチテキスト

お問い合わせは、お電話、Fax、Email、もしくは、以下のお問い合わせフォームにてご連絡ください。

会社名	Sample Inc.
住所	123-1234 Sample Street, Vancouver, BC, Canada A1A B2B
Tel	604-123-1234
Fax	604-123-1234
Email	info@sample.com
Office hours	8:00am-4:00pm, Monday-Friday.

タグ
@contact

概要

キーワード

保存 確認 14:47:06に自動保存済み

公開

公開状態 **公開**

公開日 2009-05-26 14:45:33

フォルダ /
+フォルダの変更

ファイル名 **contact**.html

コミュニケーション

受信設定 ☐ コメント ☐ トラックバック

トラックバック
送信先URL

「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」というメッセージが表示されますので、「ウェブページを表示」の箇所のリンクをクリックします。



「お問い合わせ」のページが表示され、「お問い合わせ」のコンテンツができたことがわかります。

● 美術

▶ 絵画

▶ 建築

● 文芸

▶ 詩


▶ 小説

● プライバシーポリシー

タグクラウド

[18世紀](#) [19世紀](#) [20世紀](#)

RSS Feed

 [サイトの更新情報を取得する](#)[ホーム](#) > お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせは、お電話、Fax、Email、もしくは、以下のお問い合わせフォームにてご連絡ください。

会社名	Sample Inc.
住所	123-1234 Sample Street, Vancouver, BC, Canada A1A E2B
Tel	604-123-1234
Fax	604-123-1234
Email	info@sample.com
Office hours	8:00am-4:00pm, Monday-Friday.

(8) サイドナビのお問い合わせ先の作成

ここでは、サイドナビに表示される「お問い合わせ先」の作成方法をご説明します。

「My First Blog」のダッシュボードを表示します。操作メニューの「新規作成」の中の「ウェブページ」を表示します。



「新しいウェブページを作成」というタイトルのページが表示されますので、ウェブページの「タイトル」として「お問い合わせ先」と入力し、「本文」にお問い合わせ先としてお知らせしたい情報（住所、電話番号、Fax 番号、Email アドレスなど）を入力します。

（「タイトル」に入力したテキストは、サイドナビに「お問い合わせ先」セクションのタイトルとして表示されます。）

そして、「タグ」の箇所に半角英数文字で「@contact_side」と記述し、「公開状態」を「公開」に、ファイル名のところに「contact-side」と入力、そして、左下方にある「保存」ボタンをクリックします。（ファイル名は特に「contact-side」である必要はありません。ご自分でわかりやすい名前であれば OK です。）

※「お問い合わせ先」セクションをサイドナビに作成する上でポイントなのは、「タグ」の箇所に「@contact_side」と記述することと、「お問い合わせ先」セクションのページ用に「フォルダ」を用意しない点です。（つまり root 直下にファイルを置きます。）

タイトル
お問い合わせ先

本文 読み フォーマット: リッチテキスト

Sample Inc.
123-1234 Sample Street
Vancouver, BC, Canada A1A B2B
Tel: 1-604-123-1234
Fax: 1-604-123-1234
info@sample.com

タグ
@contact_side

概要

キーワード

保存 確認 15:05:00に自動保存済み

公開

公開状態 公開

公開日 2009-05-26 15:03:05

フォルダ /
+フォルダの変更

ファイル名 contact-side .html

コミュニケーション

受信設定 ☐ コメント
☐ トラックバック

トラックバック
送信先URL

「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」というメッセージが表示されますが、ここでは、「ウェブページを表示」の箇所のリンクはクリックせず、「サイトの表示」アイコンをクリックします。



サイトが表示されます。サイドナビに「お問い合わせ先」セクションができたことがわかります。

YOUR COMPANY LOGO

ビジネスに活用できる、シンプルなデザインで、使いやすいテンプレートを。

[ホーム](#) | [会社概要](#) | [お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#)

Comunica Templates

ビジネスに活用できる、シンプルなデザインで、使いやすいテンプレートを。



© ARINAKANO

● 美術

● 文芸

● プライバシーポリシー


タグクラウド

[18世紀](#) [19世紀](#) [20世紀](#)

お問い合わせ先

Sample Inc.
123-1234 Sample Street
Vancouver, BC, Canada A1 A B2B
Tel: 1-604-123-1234
Fax: 1-604-123-1234
info@sample.com

RSS Feed

 [サイトの更新情報を取得する](#)

最新記事

- 2009年11月 6日 [小説](#)
小説における歴史について。これはテストです。小説に関する記事のテストを入力してい...
- 2009年11月 6日 [詩](#)
詩における歴史について。これはテストです。詩に関する記事のテストを入力しています...
- 2009年11月 6日 [文芸](#)
文芸における歴史について。これはテストです。文芸に関する記事のテストを入力してい...
- 2009年11月 6日 [建築](#)
建築における歴史について。これはテストです。建築に関する記事のテストを入力してい...
- 2009年11月 6日 [絵画](#)
絵画における歴史について。これはテストです。絵画に関する記事のテストを入力してい...

※サイドナビに表示される「お問い合わせ先」をサイト全体に反映する為に、「My First Blog」を再構築します。

(9) トップページの特ピック記事の作成

Comunica Templates のテンプレートでは、サイトのトップページにトピック用の記事を設定することができるようにしています。ここでは、その作成方法をご説明します。

「My First Blog」のダッシュボードを表示します。操作メニューの「新規作成」の中の「ウェブページ」をクリックします。



「新しいウェブページを作成」というタイトルのページが表示されますので、ウェブページの「タイトル」と「本文」にそれぞれテキストを入力します。

「タグ」の箇所には、半角英数文字で「@home」と記述し、「公開状態」を「公開」に、ファイル名のところに「top」と入力、そして、左下方にある「保存」ボタンをクリックします。（ファイル名は特に「top」である必要はありません。ご自分でわかりやすい名前であればOKです。）

※トピック用の記事を作成する上でポイントなのは、「タグ」の箇所に「@home」と記述することと、トピック用の記事に対して「フォルダ」を用意しない点です。（つまり root 直下にファイルを置きます。）

タイトル
3月展覧会のお知らせ

本文 読み フォーマット: リッチテキスト


 3月3日～5月5日
 ルーヴル美術館展 17世紀ヨーロッパ絵画
 3月展覧会のお知らせです。これは展示会へのテスト投稿。17世紀のヨーロッパの絵画、ルーヴル美術館展が
 ございます。是非ご来場ください。これはテスト投稿
 です。

タグ
@home

概要

キーワード

保存 確認 15:44:15に自動保存済み

公開

公開状態 **公開**

公開日 2009-05-26 15:42:37

フォルダ /
 +フォルダの変更

ファイル名 **top** .html

コミュニケーション

受信設定 ☐ コメント
☐ トラックバック

トラックバック
 送信先URL

「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」というメッセージが表示されますが、ここでは、「ウェブページを表示」の箇所のリンクはクリックせず、「サイトの表示」アイコンをクリックします。



サイトが表示されます。「トップイメージ」の下に「トピック記事」が表示されます。



● 美術

● 文芸

● プライバシーポリシー


タグクラウド

18世紀 19世紀 20世紀

お問い合わせ先

Sample Inc.
123-1234 Sample Street
Vancouver, BC, Canada A1A B2B
Tel: 1-604-123-1234
Fax: 1-604-123-1234
info@sample.com

RSS Feed

 [サイトの更新情報を取得する](#)

3月展覧会のお知らせ



3月3日～5月5日

ルーヴル美術館展 17世紀ヨーロッパ絵画

3月展覧会のお知らせです。これは展示会へのテスト投稿。17世紀のヨーロッパの絵画、ルーヴル美術館展がごさいます。是非ご来場ください。これはテスト投稿です。

最新記事

- 2008年11月 6日 [小説](#)
小説における歴史について。これはテストです。小説に関する記事のテストを入力してい...
- 2008年11月 6日 [詩](#)
詩における歴史について。これはテストです。詩に関する記事のテストを入力しています...
- 2008年11月 6日 [文芸](#)
文芸における歴史について。これはテストです。文芸に関する記事のテストを入力してい...
- 2008年11月 6日 [建築](#)
建築における歴史について。これはテストです。建築に関する記事のテストを入力してい...

(10) ロゴの入れ替え

Comunica Templates のテンプレートで作成したサイトのロゴを変更するには、ロゴの画像 (logo.gif) を修正し、画像の差し換えを行います。

※画像を修正するには、画像編集ソフト=Photoshop などが必要です。また、logo.gif の元画像は、元画像フォルダの中にあります。

logo.gif は、サーバの公開フォルダ直下にアップロードした images フォルダの中にあります。お手元の画像編集ソフトで logo.gif を修正後、同じファイル名で同サーバの images フォルダ内にアップロード（上書き）し、画像の差し換えを行います。

画像サイズに関しては、基本、テンプレート内の logo.gif のサイズに合わせます。もしも、logo.gif のサイズを変更する場合は、「My First Blog」の「テンプレートモジュール」である「ヘッダー」の該当箇所を修正します。（<h1>〜</h1>で囲まれた箇所の img タグにある width と height のところ）

テンプレートを修正後は、必ず再構築します。



(11) トップイメージの入れ替え

トップイメージを変更するには、top_image.jpg を修正し、画像の差し換えを行います。
※画像を修正するには、画像編集ソフト=Photoshop などが必要です。また、top_image.jpg の元画像は、元画像フォルダの中にあります。

top_image.jpg は、サーバの公開フォルダ直下にアップロードした images フォルダの中にあります。お手元の画像編集ソフトで top_image.jpg を修正後、同じファイル名で同サーバの images フォルダ内にアップロード（上書き）し、画像の差し換えを行います。

画像サイズに関しては、基本、テンプレート内の top_image.jpg のサイズに合わせます。もしも、top_image.jpg のサイズを変更する場合は、CSS フォルダ内にある content_categories.css の div.top-image の箇所にある width と height も修正し、CSS ファイルをサーバにアップロードします。

```
/*
-----
name      : Comunica Templates Theme005 Trial Version
author    : Comunica Templates
author_url : http://www.comunicatemplates.com/

File Name  : /css/content_categories.css
Description : 各カテゴリーのコンテンツレイアウトを形成するためのCSSファイル。
-----
*/

/*-----
   Category: Home
-----*/

div.top-image {
margin: 0;
padding: 0 0 10px 0;
width: 900px;
height: 360px;
text-indent: -9999px;
background: #FFF url(../images/top_image.jpg) left top no-repeat;
}
```

また、「トップイメージ」の画像は、背景画像として設定しているため、HTML サイドでタグが空要素にならないように（マークアップの構文エラーにならないように）、「My First Blog」の「説明」で指定した内容が、その空要素の箇所に来るようにしています。

（ブラウザ上では視覚的には見えません。）

では、その「説明」の設定箇所がどこであるのかについて、ご説明します。

「My First Blog」のダッシュボードを表示します。操作メニューの「設定」の中の「全般」をクリックします。



「全般」というタイトルのページが表示されます。このページの「ブログの設定」にある「説明」箇所に、このサイトについての簡単な概要を記述し、下方にある「変更を保存」ボタンをクリックします。この「説明」が「トップイメージ」用のテキストになります。

※この「説明」の部分については、「■ トップページにおける title と description と keywords」において、「description」として説明したところと同じ箇所です。



設定後は、この変更をサイトに反映するために、「My First Blog」を再構築します。再構築後、HTML ファイルを調べると、「トップイメージ」の箇所に「説明」で入力したテキストが記述されているのがわかります。

```
</div><hr />
```

```
<div class="top-image"><span>Artに関するサイト</span></div>
```

```
<!-- Pagebody -->
```

```
<div id="pagebody_top" class="pkg">
```

(12) 文字サイズの変更

Comunica Templates のテンプレートには、文字サイズを調整するための専用 CSS ファイルがあります。CSS フォルダ内の font_m.css が、これにあたります。

既定の設定では、コンテンツの部分だけ文字サイズを若干大きくしています。
これを、サイドナビのカテゴリメニューなどのフォントサイズと同じにする場合は、以下のようになります。

<pre>#content { font-size: 110%; } #pagebody_top #content { font-size: 110%; }</pre>	左側の赤字で記しているフォントサイズ 110%を、100%にし、右側のようにします。	<pre>#content { font-size: 100%; } #pagebody_top #content { font-size: 100%; }</pre>
--	--	--

トップページのコンテンツのフォントサイズのみを 100%にしたい場合は、以下のようになります。

<pre>#pagebody_top #content { font-size: 110%; }</pre>	左側の赤字で記しているフォントサイズ 110%を、100%にし、右側のようにします。	<pre>#pagebody_top #content { font-size: 100%; }</pre>
--	--	--

タグクラウドのフォントサイズを変更したい場合は、以下の箇所のフォントサイズを変更します。サイズは 1～8 までとなります。

<pre>#sidebar ul.tagclouds .size1 { font-size: 160%; } #sidebar ul.tagclouds .size2 { font-size: 150%; } #sidebar ul.tagclouds .size3 { font-size: 140%; } #sidebar ul.tagclouds .size4 { font-size: 130%; } #sidebar ul.tagclouds .size5 { font-size: 125%; } #sidebar ul.tagclouds .size6 { font-size: 115%; } #sidebar ul.tagclouds .size7 { font-size: 100%; } #sidebar ul.tagclouds .size8 { font-size: 85%; }</pre>

これら以外にもヘッダーやフッター、h1～h6 などのテキストサイズを変更できます。
詳しくは、CSS フォルダ内の font_m.css をご確認ください。

※フォントサイズの指定は、px などの絶対指定ではなく、%（もしくは em）などの相対指定にします。これはサイトを訪れてくれる方々（特に IE を使用している方々）に対するユーザビリティの考慮のためです。

(13) 用意されている HTML タグ用のクラス

Movable Type で記事を書く際、ある箇所だけフォントサイズを小さくしたり、大きくしたり、また、画像を挿入した箇所の右や左、上や下に余白を設けたい場合があると思います。これらの場合を想定し、Comunica Templates のテンプレートでは、予め、これらの指定を持った CSS のクラスを用意しています。

■ フォントサイズ用の CSS クラス

フォントサイズ用の CSS クラスとして、以下のクラスを用意しています。

・ このクラスを指定している CSS ファイル : font_m.css

```
.fontSmall {
    font-size: 85%;}
.fontMedium {
    font-size: 100%;}
.fontLarge {
    font-size: 115%;}
.fontLarge-x {
    font-size: 125%;}
.fontLarge-xx {
    font-size: 130%;}
.fontLarge-xxx {
    font-size: 140%;}
.fontLarge-xxxx {
    font-size: 150%;}
.fontLarge-xxxxx {
    font-size: 160%;}
```

<例1>

記事を書く際、小さい文字でテキストを指定したい場合、HTML タグ用のクラスとして .fontSmall を使用できます。

<p class="fontSmall">○○○○○○○○○○○○○○</p>

<例 2 >

大きい文字でテキストを指定したい場合は、HTML タグ用のクラスとして fontLarge を使用できます。

```
<p class="fontLarge-xx">oooooooooooo</p>
```

■ スペース用の CSS クラス

スペース用の CSS クラスとして、以下のクラスを用意しています。

・ このクラスを指定している CSS ファイル：content_elements.css

```
.margin-right5 {  
margin-right: 5px;  
}  
.margin-right10 {  
margin-right: 10px;  
}  
.margin-right15 {  
margin-right: 15px;  
}  
.margin-right20 {  
margin-right: 20px;  
}  
.margin-right25 {  
margin-right: 25px;  
}  
.margin-right30 {  
margin-right: 30px;  
}  
.margin-right35 {  
margin-right: 35px;  
}  
.margin-right40 {  
margin-right: 40px;  
}  
.margin-right45 {  
margin-right: 45px;  
}
```

```
.margin-right50 {  
margin-right: 50px;  
}
```

```
.margin-left5 {  
margin-left: 5px;  
}
```

```
.margin-left10 {  
margin-left: 10px;  
}
```

```
.margin-left15 {  
margin-left: 15px;  
}
```

```
.margin-left20 {  
margin-left: 20px;  
}
```

```
.margin-left25 {  
margin-left: 25px;  
}
```

```
.margin-left30 {  
margin-left: 30px;  
}
```

```
.margin-left35 {  
margin-left: 35px;  
}
```

```
.margin-left40 {  
margin-left: 40px;  
}
```

```
.margin-left45 {  
margin-left: 45px;  
}
```

```
.margin-left50 {  
margin-left: 50px;  
}
```

```
.margin-top5 {  
margin-top: 5px;  
}
```

```
.margin-top10 {  
margin-top: 10px;  
}  
.margin-top15 {  
margin-top: 15px;  
}  
.margin-top20 {  
margin-top: 20px;  
}  
.margin-top25 {  
margin-top: 25px;  
}  
.margin-top30 {  
margin-top: 30px;  
}  
.margin-top35 {  
margin-top: 35px;  
}  
.margin-top40 {  
margin-top: 40px;  
}  
.margin-top45 {  
margin-top: 45px;  
}  
.margin-top50 {  
margin-top: 50px;  
}  
  
.margin-bottom5 {  
margin-bottom: 5px;  
}  
.margin-bottom10 {  
margin-bottom: 10px;  
}  
.margin-bottom15 {  
margin-bottom: 15px;  
}
```

```
.margin-bottom20 {  
margin-bottom: 20px;  
}  
.margin-bottom25 {  
margin-bottom: 25px;  
}  
.margin-bottom30 {  
margin-bottom: 30px;  
}  
.margin-bottom35 {  
margin-bottom: 35px;  
}  
.margin-bottom40 {  
margin-bottom: 40px;  
}  
.margin-bottom45 {  
margin-bottom: 45px;  
}  
.margin-bottom50 {  
margin-bottom: 50px;  
}
```

<例 1 >

記事を書く際、下のパラグラフとの間にスペースを設けたい場合、HTML タグ用のクラスとして margin-bottom5（～margin-bottom50 まで）を使用できます。

```
<p class="margin-bottom50">○○○○○○○○○○○○○○</p>
```

<例 2 >

画像を挿入し右側に寄せた場合で、画像の左側にスペースを設けたい場合、HTML タグ用のクラスとして margin-left5（～margin-left50 まで）を使用できます。

```

```

■ フロート用の CSS クラス

フロート用の CSS クラスとして、以下のクラスを用意しています。

- ・ このクラスを指定している CSS ファイル：content_elements.css

```
.float-right {  
float: right;  
}  
.float-left {  
float: left;  
}  
.clear-both {  
clear: both;  
}
```

<例 1 >

画像を挿入した際、align を使わずに右寄せにしたい場合、HTML タグ用のクラスとして float-right を使用できます。

```

```

<例 2 >

にフロートが使われているパラグラフに後続するパラグラフが、前述のフロートに影響される場合、HTML タグ用のクラスとして clear-both を使用できます。

```
<p>
```

```
○○○○○○○○○○○○○○</p>
```

```
<h3 class="clear-both">○○○○○○○○○○○○○○</h3>
```

```
<p>○○○○○○○○○○○○○○</p>
```

(14) 用意されている CSS スタイル済みの HTML タグ

ここでは、Comunica Templates のテンプレートで、既に CSS スタイル済みの HTML タグをご紹介します。記事を作成する際、これらの HTML タグを使用し、正しいマークアップを心掛けることで、SEO を高めることができます。

Comunica Templates のテンプレートでは、テンプレートの性質上、また、ご利用者の多様性により、ロゴは<h1>（見出しレベル 1）に、ブログ記事やウェブページのタイトルは<h2>（見出しレベル 2）に指定しています。

この為、論理的なマークアップを行うにあたり、ブログ記事やウェブページの中で使用する見出しタグは、<h3>（見出しレベル 3）からとなります。もちろん、ブログ記事/ウェブページの中に、ブログ記事/ウェブページのタイトルと同じレベルの見出しを置きたい場合は、<h2>タグを使うことができます。以下はタグのサンプルです。（ご参考用のみ。）

```
<h3>H3 見出しタイトル</h3>
```

```
<div>これは Div の文章です。</div>
```

```
これはパラグラフの無い文章。<br />
```

```
<h4>H4 見出しタイトル</h4>
```

```
<p>パラグラフの文章。</p>
```

```
<h5>H5 見出しタイトル</h5>
```

```
<p class="fontSmall">フォントサイズの小さなテキストです。</p>
```

```
<h6>H6 見出しタイトル</h6>
```

```
<p class="fontLarge">フォントサイズの大きなテキストです。</p>
```

```
<p><a href="index.html">リンクテキストです。</a></p>
```

```
<p>
```

```
  abbr の場合： <abbr title="Extensible Markup Language">XML</abbr><br />
```

```
  acronym の場合： <acronym title="Small Office Home Office">SOHO</acronym><br />
```

```
  キーボード入力の場合： <kbd>qwerty</kbd>
```

```
</p>
```

```

<p>

    <em>em タグです。</em>

    <i>italic のサンプルテキスト。</i>

    <strong>strong タグです。</strong>

    <b>bold のサンプルテキスト。</b>

    sub のテキスト CO<sub>2</sub>。

    sup のテキスト CO<sup>2</sup>。

</p>

<p>出典先は、<cite>"出典先のテストで参照元。"</cite>です。</p>
<p><ins>追記です。これは追記。追記です。</ins>です。</p>
<p><del>これは削除です。</del>ここから普通のテキスト開始。</p>

<blockquote>引用文がここに来ます。</blockquote>

<ul>

    <li><a href="http://www.testxxx.com/test_.html">リンク</a>

        <ul>

            <li><p>リストの中のパラグラフ。</p>パラグラフ以外のリスト内のテキスト。</li>

            <li><div>リストの中の Div テキスト。</div>Div 以外のテキスト。</li>

            <li>リストの中のサンプルテキスト。</li>

        </ul>

    </li>

    <li>これはサンプルテキストです。

        <ol>

            <li>リストの中のサンプルテキスト。</li>

            <li>リストの中のサンプルテキスト。</li>

        </ol>

    </li>

    <li>これはサンプルテキストです。

        <dl>

            <dt>定義リストタイトル</dt>

            <dd>これは、定義デファニション。</dd>

            <dt>定義リストタイトル</dt>

            <dd>これは、定義デファニション。</dd>

        </dl>

    </li>

</ul>

```



```

<ol>

  <li><p>リンク http://www.testxxx.com/test_.html</p></li>
  <li><div>リストの中の Div。</div></li>
  <li>これはサンプルテキストです。

    <ol>

      <li>これはサンプルテキストです。</li>
      <li>これはサンプルテキストです。</li>

    </ol>

  </li>
  <li>これはサンプルテキストです。

    <dl>

      <dt>定義リストタイトル</dt>
      <dd>これは、定義デファニション。</dd>
      <dt>定義リストタイトル</dt>
      <dd>これは、定義デファニション。</dd>

    </dl>

  </li>
</ol>
<form action="">
  <fieldset>
    <legend>個人情報</legend>
    <label for="">氏名 : </label>
    <input type="text" id="" name="" />
    <label for="">住所 : </label>
    <input type="text" id="" name="" />
  </fieldset>
  <fieldset>
    <legend>クレジットインフォ</legend>
    <div>
      <label accesskey=""><input type="radio" name="" value=""> Visa</label>
      <label accesskey=""><input type="radio" name="" value=""> MasterCard</label>
    </div>
    <div>
      <label accesskey="">Number: <input type="text" name=""></label>
      <label accesskey="">Expiry: <input type="text" name=""></label>
    </div>
  </fieldset>
</form>

```

```

<form action="" method="">
  <div>お名前 <span class="red">*</span> : <br />
    <input type="text" size="" name="" /></div>
  <div>メールアドレス <span class="red">*</span> : <br />
    <input type="text" size="" name="" /></div>
  <div>件名 : <br /><input type="text" size="" name="" /></div>
  <div>本文 <span class="red">*</span> : <br />
    <textarea rows="" cols="" name=""></textarea></div>
  <div><input type="submit" name="" value="確認" />
    <input type="submit" name="" value="送信" /></div>
</form>

<form action="" method="">
  <dl>
    <dt>お名前 <span class="red">*</span> : </dt>
    <dd><input type="text" size="" name="" /></dd>
    <dt>件名 : </dt>
    <dd><input type="text" size="" name="" /></dd>
    <dt>本文 <span class="red">*</span> : </dt>
    <dd><textarea rows="" cols="" name=""></textarea></dd>
  </dl>

  <div><input type="submit" name="" value="確認" />
    <input type="submit" name="" value="送信" /></div>
</form>

<form action="" method="">
  <table>
    <tr>
      <td>住所 : <input type="text" name="" tabindex="" /></td>
      <td><a href="#" tabindex="">住所記入の注意</a></td>
    </tr>
    <tr>
      <td>氏名 : <input type="text" name="" tabindex="" /></td>
      <td><a href="#" tabindex="">氏名記入の注意</a></td>
    </tr>
    <tr>
      <td>右から選択してください</td>
    </tr>
  </table>

```

```

        <td>
            <select name="">
                <option value="">この文字が表示される</option>
            </select>
        </td>
    </tr>
</table>
</form>

<table summary="">
    <tr>
        <th width="50%">テーブル A</th>
        <th width="50%">テーブル B</th>
    </tr>
    <tr>
        <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
        <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
    </tr>
</table>

<table summary="" width="100%">
    <tr>
        <th style="width: 20%;">カテゴリ 1</th>
        <td style="width: 80%;">テーブルテキストのテスト。</td>
    </tr>
    <tr>
        <th>カテゴリ 2</th>
        <td>テーブルテキストのテスト。</td>
    </tr>
    <tr>
        <th>カテゴリ 3</th>
        <td>テーブルテキストのテスト。</td>
    </tr>
</table>

```

```
<pre>
<table>
  <tr>
    <th width="50%">テーブル A</th>
    <th width="50%">テーブル B</th>
  </tr>
  <tr>
    <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
    <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
  </tr>
</table>
</pre>
```

```
<pre><code>
<pre><code>の場合
<table>
  <tr>
    <th width="50%">テーブル A</th>
    <th width="50%">テーブル B</th>
  </tr>
  <tr>
    <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
    <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
  </tr>
</table>
</code></pre>
```

これで、「サイトの構築方法」は終了です。
お疲れ様でした。